

演説原稿例（自共対決の政党配置）二〇一三年十二月二十五日 埼玉県委員会

ご近所のみなさん、日本共産党でございます。大変お世話になった二〇一三年も暮れが押し迫ってきました。が来年もご支援をよろしく願います。

来年四月からの消費税増税の決定、原発再稼働の推進、沖縄への新たな米軍基地の押しつけなど、多くの国民が安倍内閣の暴走に大きな危惧と不安を感じているのではないのでしょうか。

さらに東京都議選や参議院議員選挙では安倍内閣の暴走にストップをかけられるのはどの党、どの候補者かが問われました。その結果、民主党の衆院から引き続きの後退と維新の党、みんなの党など自民党の補完的役割を果たした政党が停滞ないし後退し、共産党が都議会では八議席から一七議席へ躍進、参議院選挙でも共産党は三議席から八議席と躍進しました。

みなさん、自民党の補完的役割の政党が後退し、安倍自公政権の暴走に真正面から対決し、対案を示し国民に訴える共産党の姿が鮮明になって入るのではないのでしょうか。

みなさん、国会では安倍内閣は、国民の目と耳と口をふさぎ、知る権利を奪う「秘密保護法」を多くのマスコミや学者、文化人が反対を求める中で強行採決しました。参議院本会議で、民主党が討論を放棄し、日本維新の会やみんなの党も退席した中で、共産党の仁比参議院議員だけが断固反対の立場から「日本共産党は国民各層と手を結び、憲法を高くかかげ、米軍とともに『海外で戦争する国』に変える企てと断固たたかう」と堂々述べました。まさに“自共対決”の討論が行われ、これがインターネットやフェイスブックでも流され“これが国民の声だ”と大いに話題になりました。暴走勢力は国会では多数でも国民の中では圧倒的少数だと言うことが示されました。

みなさん、また、医療法人徳州会のぐるみ選挙事件が発端で、猪瀬知事が徳田議員からの五千万円を受け取った事実が明るみに出ました。これを追求された都知事は、都議会がウソやいい加減な答弁を許さない一〇〇条委員会の設置を決めたことと、知事の椅子を投げ出しました。辞めようが居座ろうが知事から真相の解明を求めるのが都議会の都民に対する責任ではないのでしょうか。みなさん、これでは猪瀬都知事の五千万円のこともうやむやにし、徳田衆院議員につながる徳州会の大規模な公職選挙法違反事件の解明までも幕引きをはかるのではないかと思われても仕方のないことではないのでしょうか。日本共産党は引き続き真相究明に全力を尽くすと同時に、都民本意の清潔な都知事候補の擁立をめざし全力を挙げます。

来年も秘密保護法の撤廃、消費税増税のストップを求めてみなさんとともに頑張ります。

引き続きのご支援をよろしく願います。